

2017年8月25日
公益社団法人 日本証券アナリスト協会

シニア・プライベートバンカー筆記試験(2017年春)の結果について

公益社団法人日本証券アナリスト協会では、シニア・プライベートバンカー(シニア PB<上級レベル>) 筆記試験(2017年春)^(注) に関し、PB 資格試験委員会(委員長:新井 富雄 東京大学 名誉教授)の審議を経て、次のとおり合格者を決定した。

筆記試験の受験者(答案提出者)57人のうち、合格者は15人、合格率は26.3%であった。合格者15名は、全員所定の実務経験を積んでおり、シニア PB 資格が付与される。

なお、試験開始(2013年)以来の累計では、受験者数366名、合格者数77名、合格率21.0%となった。

【参考】シニア PB 合格者・累計(77名)の内訳			
〔所属〕	〔保有資格〕		
・証券会社	：28名	・CMA(当協会検定会員)	：35名
・銀行・信用金庫	：24名	・1級FP技能士・CFP	：41名
・その他金融	：9名	(CMAとの重複11名)	
・公認会計士	：2名		
・その他	：14名		

(注)シニア PB 筆記試験は、3単位のコンピュータ試験に合格した者を対象とする試験で、課題として与えられたケーススタディについて、在宅で投資政策書を作成して提出する形式。

筆記試験に合格し、一定の実務経験(CMA 以外は2年間のPB 関連の実務経験が必要)があれば、シニア PB 資格が付与される。

なお、投資政策書は、事業オーナーなど富裕層ファミリーのミッションを実現し、次世代以降へ事業や財産の円滑な移転を図るための提案書で、金融、不動産、自社株から税務、家族の夢の実現に至るまで目配りの利いた包括的な提案が求められる。その作成は、多岐にわたる高度な知識が必要なのはもちろんのこと、各分野の専門家との連携も含め、プライベートバンカーとしての総合力が問われる。

2017年春試験の答案の特徴等については、添付の「シニア PB 筆記試験(2017年春試験)総括コメント」をご参照下さい。

【本件に関する照会先】
公益社団法人 日本証券アナリスト協会
PB 教育担当
TEL : 03-3666-1438
E-mail : pb@saa.or.jp

以上

シニア PB 筆記試験（2017年春試験）総括コメント

今回の出題意図と、採点委員が指摘したコメントからみた答案の特徴、課題は次のとおり。

1. 出題意図

今回の試験では、パン製造業の経営者（65歳）から事業経営や事業承継、引退後の人生設計についての相談があったという設定で出題した。

今回のケースでは、同族内に事業承継候補者がいるものの、経営者として任せてよいか不安がある、競争が激化する環境下で本当に生き残っていけるのか心もとなく感じる、むしろ事業を売却した方が良いのではとの迷いがある、といった多くの中小事業主が持つ悩みを採り上げた。さらに、個人財産の担保提供の処理や非嫡出子の処遇など、やや複雑な課題も併せてクリアすることが求められている。

簡単に解決出来るテーマではないだけに、いかに顧客の身になり、顧客に寄り添った提案が出来るかが鍵になる。プライベートバンカーは、顧客と対峙するのではなく、顧客に寄り添うのだということを、プライベートバンカーの役割である3つのC(Counselor、Consultant、Coach)とともに思い出して欲しい。

2. 今回の答案の特徴、課題

(1) 改善が目立っている点

改善が目立っている点としては、次の点が挙げられる。

① 論点がわかりやすく整理された答案が増えつつある。

冒頭のサマリーや現状分析などがわかりやすく整理された提案が増えつつある。投資政策書の評価する上での一つの重要なポイントは、言うまでもなく「わかりやすさ」である。

② 対策案を比較検討している答案が増加している。

複数の対策案を比較検討した上で推奨している提案が増えている。比較検討することは、顧客とのコミュニケーションを深め、説得力を高める上でも有効な手法である。

(2) 改善が必要な点

一方、比較検討を行わずに一つの対策案に決め打ちしている提案も若干ながらあったほか、比較検討というよりも複数案を羅列しているだけに終わっている提案もあった。

なぜ、その提案が良いのか、それぞれの長所・短所の検討など、一步踏み込んだ分析が求められる。

また、結論を急ぎすぎているのではと思われる提案も散見された。顧客の意思決定を阻害する4つのハードル(不信・不要・不適・不急)のうち、最も越えるのが難しいと言われるのが不急のハードルである。解決法を示すだけでなく、夢の実現も併せた魅力的な提案としなければ、不急のハードルを越えるのは難しい。

尚、中心的なテーマではないものの、①個人財産が担保提供されており、自由に財産の処分・組み換えが出来ないこと、②非嫡出子には死後認知もあり、争族となりかねないことから、家族には内密に本人への注意喚起をすべきことなどにも配慮する必要がある。

(3) その他

① 多くの対応策を提示することに関する課題

顧客の思いを実現するために多くの対応策を提示することは望ましいことである。ただ、対応策が増えれば、ストーリーは複雑になる。従って、それだけ表現には工夫が必要になることを肝に銘じてほしい。

今回の提案の中にも、家族信託、暦年贈与、保険の見直し、航空機リースの活用といった様々な節税対策を駆使した提案があった。それ自体は悪くないのだが、メリット・デメリットをわかりやすく説明しないと、結局何が言いたいのか、なぜ必要なのかがわからなくなる。

② 提案書としての体裁に関連した課題

全般的に見た目の体裁が整ってきているなかで、「提案書としては文字が多すぎて冗長、文字を少なくして数値的裏付けを充実すべき」、「文字量を半分にして、表やチャートのかたちで整理しなおせば、かなり分かりやすくなるのではないか」といったコメントを受けている答案も引続き見られた。

また、写真をイメージ図として使用している答案が複数あったが、安易な使用には注意を促したい。例えば商品分野が同じでも自社商品とは異なる写真は、オーナーの反感を買うリスクがあるといったことを認識すべきであろう。

③ 事業承継策の実現可能性

事業承継や相続対策に関する提案が、対策案の提示にとどまり、実務的な検証がなされていないため、実現可能性について判断が難しい答案が少なくない。数字に基づく分析や、実施に際しての手順、スケジュールなどが示されると、より実現可能性の高い提案となる。会社分割や事業譲渡を検討するに当たっては、会社の規模や事業形態も考慮に入れた具体的な検討を行う必要がある。

④ 評価の高い投資政策書とは

シニア PB 筆記試験も今回で 11 回目となる。前回より過去の合格答案を一部開示(有料)していることもあり、多くの答案が一定水準を超える内容となってきたのは喜ばしい限りであるが、今一步で合格ラインに達しない答案も多い。何が合格答案と不合格答案の差になっているかを概観すると、以下のポイントが浮かんでくる。今後の受験者は参考にして欲しい。

イ. 提案内容のバランスの良さ

(a)利害関係者への配慮

(b)実現性

ロ. 選択に至った論理的思考

ハ. 明瞭簡潔な記述

協会としては、投資政策書のレベルアップのため、引続きセミナー、スクールの内容充実に注力していきます。

尚、本件についての照会・質問等には一切お答え出来ませんので、ご了承ください。

以 上